079　江戸時代　　田沼時代

吉宗は御三家の尾張藩には今後も将軍の座を渡したくありませんでした。将軍の座を尾張藩・紀伊藩で争ったからです。

御三卿 を創設

吉宗
- 8 家重（いえしげ）
  - 9 家治（いえはる）
  - 重好（しげよし）【 清水 家】
- 宗武（むねたけ）【 田安 家】
- 宗尹（ただ）【 一橋 家】

江戸城内の田安門、一橋門、清水門近くにそれぞれ屋敷を与えられ、徳川宗家の家族扱いです。田安宗武と言うこともありますが姓は徳川。藩を持たず家臣は幕臣出向、10万石支給

9代将軍 徳川家重　　将軍の言語を唯一「理解」。

言語等障害→側用人復活。大岡忠光 。

1758 宝暦事件

尊王論者の 竹内式部 を追放刑に。
尊王論が弾圧された初の事件。

神の子孫として天皇にお仕えする神道である山崎闇斎創始の垂加神道を 竹内式部 が桃園天皇に進講。

10代将軍 徳川家治

側用人 田沼意次 →老中に昇格。

田沼政権、重商主義の低禄武士を登用。

老中田沼意次はもともと低禄の下級武士だったので、家格や“常識”にとらわれない自由な発想ができました。

土地からの年貢収入に限界

民衆の経済活動からの収益も財源に

- **株仲間 結成を奨励**

営業独占を認める代わりに

運上 ・ 冥加 を納めさせる。

営業税　　営業免許税（独占の礼金・自主献金）
「商人たち！金もうけさせてやるからもうけの分け前を幕府に寄こせ」政策（笑）

- 専売制 の強化 幕府が直営する座

朝鮮人参座　朝鮮人参は幕府が専売で大もうけ。

銅座
- 銅は幕府が専売。
- 長崎貿易用の銅確保

真鍮座
- 銅、亜鉛の合金の真鍮は幕府が専売。
- 銅不足→銅銭の代わりに真鍮銭で代用（明和四文銭）の原料確保

- **貨幣制度の一本化についに着手**

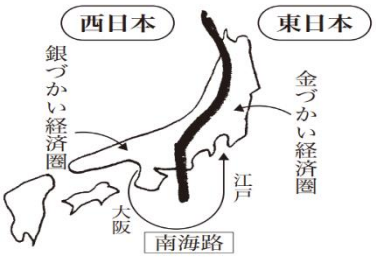
計数銀貨 南鐐二朱銀 の鋳造

換以小南判鐐一両片

※金1両＝4分　金1分＝16朱

金銀両替の公定相場

金1両＝銀50匁　を　金1両＝銀60匁



諸色は大阪から江戸に移入された

新田開発&水運整備

印旛沼 ・ 手賀沼 干拓計画

大規模な町人請負新田を奨励。浅間山噴火の火山灰で水路が埋まり、水があふれてしまい、干拓失敗。

長崎貿易の制限緩和

- 銅 、 俵物 を輸出→金銀獲得

長崎に幕府直営の俵物会所を設立、幕府が専売
金銀が流入、経済拡大に見合った金銀貨幣量を確保

ロシア貿易も計画

- 工藤平助 『 赤蝦夷風説考 』

赤蝦夷とはロシア人のことです。仙台の工藤平助が書いて田沼に提出、田沼は民間人の提案を弾圧せず採用しました。

→田沼、出羽村山出身の 最上徳内 を

東蝦夷地に派遣→蝦夷地開発計画

最上徳内は北海道で稲作が200万石可能と調査報告、田沼は北海道を開発して対ロシア防衛費にあてようと考えました。現在の北海道は稲作が全国1位です。松前藩はアイヌ人が稲作を始めると毛皮が手に入りにくくなること、アイヌが米を自給できてしまうことを恐れ、稲作を不可能としていました。

- 天明の打ちこわし

飢饉と噴火で米価暴騰、民衆困窮

→ 田沼意知 が旗本 佐野政言 に刺殺

世直し大明神

田沼意次は下級武士あがりなのでこれまでのやり方にとらわれない新しい政治ができました。老中は4～5人いて月番交代で、重要事項は老中全員と三奉行で合議政治ですが、意次は他の老中にも下級武士あがりで能力本位で重商主義政策の人物を集めました。このような田沼政権に、身分制度を重んじる譜代大名・旗本層は強く反発しました。その筆頭が、徳川吉宗の孫（田安宗武の子）という“名門サラブレッド”の 松平定信 でした。定信は朱子学を学び、私欲を抑える政治を目指し、商業を私欲にもとづくものとして抑圧する政治を目指しました。そこへ 天明の大飢饉 と 浅間山大噴火 がおこり、 東日本中心に 多くの餓死者を出したために田沼政権の無策を非難、田沼を信任してくれた10代将軍 徳川家治 が死去して田沼は失脚しました。

商業抑圧の朱子学に基づく幕藩体制は、産業革命・殖産興業を目指す時代が来ると、とても適応できませんよね。この田沼政権を否定した次の寛政の改革は、幕藩体制変革の道、延命の可能性を自らつぶしました。気が早いですが、寛政の改革が明治維新の起点です。